

No. 195

令和3年1月27日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

# Rising Sun



## 春はそこまで。

**寒** 中お見舞い申し上げます。といっても、いささかピンとこないかもしれません。本来であれば大寒の頃(令和3年は1月20日)が、1年中でいちばん寒い時期のはずですが、このところ春を思わせる陽気が続いていますので、「寒中」(小寒から立春までの期間)であることをうっかり忘れてしまいそうです。ここ数日の暖かさは、「3月下旬」並み、所によっては「4月上旬」並みの陽気だそうなので、ちょっと驚きです。でも油断は禁物。今週末には真冬の寒さに逆戻りしそうです。新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからない状況が続いていますが、その予防対策だけでなく、体調管理にはくれぐれも注意したいものです。万一体調が優れない場合は、遠慮せず申し出てくださいね。コロナ禍ですので、「職務専念義務の免除」となります。

**節** 分といえば、多くのかたは2月3日を連想すると思いますが、今年は2月3日ではないってことをご存じでしたでしょうか。

節分は、もともと季節の分かれる日の意味で、立春、立夏、立秋、立冬の前日を指していました。古代中国では冬至日を1年の区切りとしていましたが、時代の移り変わりとともに「春が1年の始まり」という考え方になり、今では一般的に立春の前日を節分としています。つまり、節分の翌日が立春。これまでは2月4日が立春でしたので、節分は2月3日でした。ところが、今年は2月3日が立春ですので、節分は2月2日なのです。昭和60年(1985年)以来、2月4日の立春が続いていましたが、37年ぶりに日付が変動するそうです(ちなみに、昭和59年の立春は2月5日、節分は2月4日でした)。

現代の日本では、国立天文台の観測によって、「太陽黄経が315度になった時間が属する日」を立春としています。令和3年(2021年)の立春の瞬間は、2月3日23時59分。ほんの1分の差で2月3日が立春になったというわけです。



立春が2月3日になるのは、明治30年(1897年)以来124年ぶりのことだそうです。ずいぶん長いこと2月4日が立春でしたが、今年から4年に1回、2月3日が立春の年が訪れるそうです。

節分や立春は、国民の祝日のように法で定められた日ではないので、そんなに混乱するようなことはないでしょうが、節分の日に行われる「豆まき」やその年の恵方を向いて食する「恵方巻」の日をまちがわないようにしたいですね。念押ししておきます。**今年の節分は2月2日です。**おまちがえのなきよう。

まだまだ先のことだというような感覚がありますが、来週はもう2月です。立春が1日早まるというのは、春が1日早く来るような感覚となり、なんだか得した気分になってしまいました。

### 立春大吉

立春大吉は、「暦の上での春であり、古来は新年の始まりであった立春に、人々や社会の幸せを祈る」言葉とされます。元旦によく見る「謹賀新年」という言葉に似たような意味をもちます。また、立春大吉は除災招福の意味をもち、とても縁起のよい言葉とされています。

節分で豆をまいて悪気邪鬼を追い払いますが、立春大吉も同じように立春という季節の変わり目に、その邪鬼を追い払うために玄関や門に貼るようになったそうです。